

## 第 2 回宇陀市総合計画審議会

日時：令和 3 年 8 月 31 日（火）午前 10 時～

場所：市役所 4 階 大会議室

### 1. 開会

鴻池副市長：

本日は 2 回目の総合計画審議会ということでございます。案件につきましては、前回の審議会の中で皆様にご協議・ご提案いただきました、市民アンケート等の調査結果や、前期の基本計画における 2020 年度の施策に対する検証結果等をご説明させていただきたいと思っております。事前に今日お配りした資料の中で、私も目を通していたのですが、市民アンケートにつきまして、将来のまちづくりに関する記載欄がありました。ある程度、予想はしておりましたが、どことなく諦めムードと言うか、停滞ムードというのが見て取れるかと思っております。全体的にネガティブな意見が出ているのですが、市民の生の声ですから、現実是非常に厳しいものがあると認識をいたしているところでございます。そこで、そういう閉塞感を打ち破るためにも、今回の中期基本計画では、希望の光が見出せるような計画にしていきたいと思うところでございます。中期基本計画の成案までは、この審議会を 4 回予定していますが、今回の審議会につきましては、中期基本計画に含めるべき視点など、非常に重要な第 2 回目の審議会と認識をいたしております。盛りだくさんの協議内容となっておりますが、皆様、どうかよろしく願いいたします。

17 名出席（3 名欠席）

### 2. 今後の策定について

- ・市長マニフェストの反映について（資料 4）
- ・SDDs の取組みについて（資料 5）

伊藤会長：

それでは、今説明がございましたが、SDGs 等の今後の中期基本計画策定について、ご質問・ご意見・ご感想でも結構ですから、ございましたら頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

松塚委員：

宇陀市商工会です。冒頭に SDGs について、いろいろと説明いただきました。質問なのですが、日本では凡そできているような感じですが、これに対して時間を取るよりも、庁内でどれがどれに当たるのか検討してくれるということですので、それは庁内でやってもらって、ほかのことに時間を取っていただきたいと思っております。まず市長マニフェストですが、1-①「地元企業の育成と企業誘致で市民の働く場を確保」とあります。このような具体的なこ

とは、ここでは審議しないと思います。いつも申ししていますが、調整地域・都市計画区域を検討する場でやっていただきたいのですが、そのような場を設けられるかどうか？この場では検討しないとなれば、せっかくつくるのだから、検討場所でしっかりとやっていただければ、ありがたいと思います。それでなければ、みんな、絵に描いた餅になってしまいます。その次、2-①「近鉄榛原駅周辺地区～キラリと光るまちづくりを県と一体となって推進」については、ほかの委員会でやっておられます。そこで、しっかりと討議していただきたいと思います。その中に載っていないが「ひのき坂」から都市計画道路で国道165号線に繋がる所でしたが、宇陀市の計画において、計画変更になり、中止になっておりますが、それをどうしていくのでしょうか。まちのど真ん中で計画が止まっているわけです。まちの真ん中の発展をどう考えていくのか、検討していただきたいと思います。それと、1-③「宇陀の土地利用」として、美榛苑は調整地域に入っているわけですが、この調整地域をどのようにしていくのか、それから、危険区域をどう解消していくのか、その方向性だけでもつけていただければ、ありがたいと思います。3-①「高度医療・緊急医療・回復療養医療」のすべてを求めるのか、特定した医療を市立病院に求めるのか、全部をするのは難しいと思いますので、市立病院は二次的な病院にしたらいいと思います。4-②「林業・木材産業を活性化」ですが、できたら官民一体で宣伝している所も、いろんなことをやられている市町村もあるわけですので、参考にしていただければ、具体的な方法でやっていけるかと思います。5「子ども、女性、高齢者が元気な宇陀市」があります。高齢者には、5-③「高齢者も元気に学べる・運動できる」、子どもなら、いろんな施策を取っておられますが、1つは高齢者が生きがいをもって生活できるということで、今、道の駅では、自分らがつくったものを売ってもらえる販売所が4カ所あるわけですが、これを続けていただきたいのです。ここで言うことではないかもしれませんが、いろいろな費用を出すにしても、費用を投資というかたちをとってもらったら、当然、健康で長生きをするので、3「健康長寿の宇陀市へ」に繋がると思います。健康になるための投資をする、健康で長生きできる、一生懸命に働いて健康を保てるといった施策も大事だと思うので、もっと考えていただけたらと思います。

伊藤会長：

では、事務局で回答できる範囲内で結構です。

事務局 鈴木：

最初に説明の仕方、資料4・5を説明させていただいた経緯についてです。実は今日、市長は諮問ということで来ておりませんが、SDGsとは当然、「持続可能な開発目標」ということです。市長の言葉をそのまま言わせていただきますと、「宇陀市が持続可能な市であるかどうかということも踏まえて、世界目標であるSDGsを前面に先に出してくれ」という指示がございまして、今回、先にSDGsと市長マニフェストを最初の議題に持ってこさせていた

きました。それを受けて、先般からアンケートを取らせていただいたという運びです。先ほど松塚委員から、SDGs は事務局で検討してほしいというご意見を頂きましたが、当然、事務局で考えさせていただきますが、本日お越しの委員のほうでも、SDGs というものがあるというご認識だけお持ちいただけたらと思っております。資料 4 では多岐にわたり、いろいろと市長マニフェストでご意見を頂きました。都市計画、駅前、ひのき坂、美榛苑、高齢者に関するもの等、数々のご意見を頂きました。松塚委員がおっしゃるとおりで、宇陀市におきましては、いろいろと山積みの問題も多々ございます。特に都市計画については、地区計画的なことも考えていただいていることもありますし、駅前につきましては、9 月にいろいろと提案があると聞いております。都市計画、ひのき坂、美榛苑についても、これからいろいろと検討していく必要があると思います。当然、総合計画ですので、市の最上位計画ということで、今後、この中に盛り込ませていただきたいと思っております。10 月以降につきましては、各部局にいろんなヒアリング、今後 4 年間の政策目標をこの中に入れていきたいと思っております。できましたら、次回の審議会でご議論いただけたらと思っております。本来であれば、いろいろと 4-①、6-④、5-⑤とか、ご指摘をいただきましたが、それを踏まえて、今後、素案というかたちで進めていければと思っております。

伊藤会長：

今、事務局から回答がありましたように、検討するというので、次回の審議会では何か提案と言うか、施策が示されるものと思います。ほかの委員の方、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。なければ、1 つだけ私から申し上げます。SDGs が世界的な目標になっていますが、グローバルな問題であると同時にローカルな問題でもあるということです。一方で、人口減少の問題があつて、総合戦略のほうでいろんな対策・取組をされているのですが、いちばん基本的なことを考えると、将来、宇陀市がどんなまちになるかという話です。宇陀市の人口が減っていく現象が今、見られていますが、人口減少をどう捉えるかという話です。減少していくことは心配ですが、将来、どれくらいの人口規模で、宇陀市の地域経済をどれくらいの規模にするのか、宇陀市に住んでいる住民が生活する基盤として、何を指すのか、つまり、雇用の問題であつたり、消費の問題であつたり、それがうまく循環していけば、持続可能になるはずなのです。SDGs の中に具体的なゴールが 17 あるのですが、まずはその中で宇陀市にとっての順位付けが出てくるかと思えます。例えば、「持続可能なまちにしたい」「生産と消費」です。事務局は、宇陀市の経済の中で外に漏れているもの、例えば、外に働きに行っているのであれば、地元で働けばいいし、生産にしても、外に行つて外貨を稼ぐことがあつても、基本的に宇陀市で必要なもの、消費するものは、宇陀市でつくろうと、「地産地消」と言いますが、逆に「地消地産」なのです。必要なものは自分たちでつくっていくと、地域の中で回ります。それと、施策を進めるためには、目安と言うか、指標が要りますが、今日もまた指標の話が出てくると思います。どうしても

測りやすいものは測るのですが、測りにくいものをどうやって測るか、つまり、宇陀市民がどれだけ満足しているか、非常に主観的なもので測りにくいものです。それをどうやって具体的に目に見えるものにしていくのかということが大事です。あるいは、行政指標だけではなくて、住民から見た「住民指標」、先の「住みよきランキング」もまさにそうです。そういったものをどうやって「見える化」していくか、それが市長マニフェストなり、SDGsの中に具体的な施策に落とし込まれるときに必要になってくると思います。要するに、宇陀市の中でいい循環が起こるためには、どうすればいいかを考えていくことだと思います。それはSDGsにも関わりますが、持続可能な開発目標ということです。つまり、宇陀市はもともと4つの地域が合併してできましたが、宇陀市の中でどうやったら消費・生産・雇用といったものがうまく回っていくのかを考えていくための目安が必要かだと思います。個別具体的に今、松塚委員が指摘されたような課題が目の前にありますが、その課題を解決すると同時に、全体的な総合政策ですから、宇陀市のまちの姿みたいなものをどうやってつくっていくかということかだと思います。おそらく、これから皆様もそれぞれの分野の方、委員の方がいらっしゃいますので、それぞれの領域からご意見を頂けるものかだと思います。ほかに特になければ、今日はアンケート結果が出ていますので、そちらの説明を聞いて、住民の皆様がどのように感じていらっしゃるかをまずお聞きして、ご意見を求めたいと思います。

### 3. 市民アンケート結果について（資料1）

伊藤会長：それでは、ただ今の説明内容につきまして、ご質問・ご意見・ご感想でも結構ですから、委員の方から賜りたいと思います。いかがでしょうか。おそらく皆様が想像されていた内容になっていると思うのですが、疑問点も多いのではないかと思います。私がお聞きしていて気づいたことは、市民アンケートの結果と職員アンケートの結果が違っているのは、なぜかということです。おそらく職員の方は日々、業務の中で自分のやられている仕事、行政の内容をご存じですが、市民の皆様は多くはご存じないだろうと、そういう行政情報の格差みたいなものが結果に表れているのではないかと思います。そういう意味でも、行政情報を市民と職員の間で共有していくというのは、大事だと思います。もう1点、これはあくまでもアンケート集計の結果、今、説明いただいたような内容になっていますが、これをどこまで信頼していいのかという話があります。これを基に、これから施策を考えていくことになると思うのですが、鵜呑みにしないで、ミスリーディングをしないようにして、もう少しアンケート結果を基にして、施策を考えるときに住民の皆様が考えられていることを感じ取られて、施策の取組を考えていかれたらと思うのですが、これは私の感想です。こんなことでも結構ですが、どなたかございますか。

松石委員：

南都銀行です。今のアンケート結果とかお聞かせいただいた中で、これは総合計画なので、

6つの目指すまちの姿ということで、幅広く取り組んでいかなければいけないのは、重々理解しています。今、SDGs と紐づけるという話もありましたので、アンケートの中で「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」というのが突出しているということですから、この2点に絞って、ある程度、強弱をつけた施策というのが必要になってくるという気がします。財政面も含めてですが、すべてを網羅していくというのは、なかなか難しいところです。この場でも結構ですので、強弱をつけた施策と言うか、計画にさせていただけるような方向性はどうかという思いを持っております。

事務局 鈴木：

今、松石委員からご意見を頂きましたが、結果がすべてという、先ほど会長からお話がありました。冒頭にSDGsのお話もさせていただきましたが、資料5の3「保健」や11「持続可能な都市」が、アンケート結果からは突出したところではございます。ただ、前回（第1回目）の資料でお示したように、17のSDGsが宇陀市のすべての事業において入っているため、当然、11「持続可能な都市」というのは、宇陀市におきましても、いちばん多い項目になっており、15の施策がこの中に入っているかたちです。今、ご意見として、「一点集中」ということでありますが、行政ですから「公平・公正」というところもございまして、ここらを参考に進めてはいきたいと思っております。行政としては、ほかの事業をまったくしないというわけには、なかなかいかないのではないかとというのが、事務局の思いではございますが、ご意見としては賜りたいと思っております。

事務局 藤田：

重点的ということで、第1回目の審議会のときにもお話があったかと思っておりますが、施策の体系をつくっていくときに、中期計画では重点事業を取り上げてはどうかというお話もあったかと思っております。そうしたところにも取り入れていければと思っております。

松塚委員：

市民アンケートの結果について、「企業誘致の推進」「雇用の場の確保」「公共交通の維持」ということもあります。公共交通がだんだん不便になる一方だと思っております。近鉄でも、今の状況では特急も減らしているということです。宇陀市を取り巻く環境は、拡大していったり、維持していったりするのではなくて、縮小していく環境であると思っております。総合計画を立てなかったら、何のためのことか、ちょっと難しいかもしれませんが、わかりません。但し、先ほど副市長が言われたように、基本がなかったらいけない、だから、夢は何なのか、その1つの夢を追って、維持していくことは最高であって、縮小していくのをどう止めていくかを考えていくのです。ということは、いろんな事業をやらないことを徹底していただくとともに、市民がいろんな要望をしておりますので、「子育て支援の充実」というのは、物理的な支援なのか、精神的な支援なのかということも考えていくと、物理的

な支援は全体的にはたいへん難しくなっています。子育て世代の方がこの市に来るとなると、モノ・カネを求めてくることになるので、それはちょっと難しいと思います。全部の市町村がそれをやりだしたら、キリがないわけで、借金が増えるだけであって、次の世代に負債を残すのはいけないと思います。今あるまちで、どうしていくのか、われわれ市民が行政とどのように考えていくのかといことも盛り込まれたら、ありがたいと思います。行政の縮小化ということもありましたが、市民の協力がなかったら、できません。ゴミも先ほど申し上げましたが、市民一人ひとりではできないので、ゴミをもっと分別して、活用できることも考えていくのです。ゴミも活用すれば、資源になるわけです。そういうかたちを取っていくような考え方で進めていかないといけないとっております。今、市民アンケートを見てみたら、要望ばかりを聞いたというかたちを取ってもいけません。だから、この中には、「使用していない公共施設の有効活用」「空き家の有効活用」をしたらどうかという意見もあります。新たにつくるよりも、それらを活用していくことを考えてもいいと思います。空き家の利用は、どのまちでもやっていて、なかなか難しいとは思いますが、ただ、人が集まることがいちばん大事なことから、「雇用の場の確保」をどうしていくのか、新しい産業をつくるのか、農林業をもっと充実していくのか等、どこかの事業に入れられたらどうかと思います。

伊藤会長：

松塚委員のご発言のとおりかと思えます。これから先は、成長だけの拡大均衡という考え方はないと思います。いかにして、宇陀市民の皆様が住み続けられるまち、住みやすいまちにしていくかということだと思います。今、改めてSDGsの17の目標を見てみると、1～16はそれぞれ具体的な目標があります。最後の17「実施手段」は、目標を実現するための手段を目標にしているのです。つまり、宇陀市の持続可能なまちづくりを考えたときに、今、どこの自治体も住民と行政の協働まちづくりと言っていますが、まさにそのことで、これから施策を進めていく上で、住民との協働がないとできないということで、例えば、総合計画で何をやるのか、まちづくりの目標を決めたときに、住民の皆様と行政がパートナーシップ、協力してやっていくためには、施策目標、政策策定のプロセスの段階から、何と言いますか、共有していくことが必要になってくると思います。17「実施手段」という目標はある意味、重要な目標かと思えます。市長マニフェストの中にも表れているかと思えますが、その辺りも考えていただければと思います。

吉川委員：

教育委員会です。このアンケートを見せていただいて、いちばん驚いたのが、回答の中で「どちらでもない」というパーセンテージがものすごく多いことです。これをどうやって考えていくのか、これらの方の問題意識を、宇陀市のために頑張るような肯定的なほうに取り組むような施策をわれわれが考えなければならないのか、それとも、これはあくまで

アンケートでこのまま放っておけということなのか、私としては、回答できるように、どちら側でもいいですから、自分の意志をはっきりしてもらうような施策にもっていかなければ、将来、宇陀市はなかなか前向いて進まないのではないかと痛感しました。職員の意識の中にも、なかなか肯定的なものもありますが、否定的なものも何人かおられます。これもどのように捉えていいのか、私にはわかりません。この方にも宇陀市のために頑張ってもらい、少しでも前向きに捉えていくことも、総合計画の意味としては、非常に重要なアンケート結果ではなかったかと思います。アンケートには、市民アンケートと職員アンケートとありますが、どちらを大事にわれわれの目線を置くのか、職員アンケートをもっていくのか、市民アンケートの結果を見て、その結果をわれわれが活かして、計画の中に盛り込んでいくのかというのが、われわれに与えられた重要な仕事ではないかと思いました。

伊藤会長：

非常に大事なポイントだと思います。「どちらでもない」というのは、迷っているのか、わからないのかということです。市民アンケートと職員アンケートに結果として、違いが出ているのは、市民アンケートも職員アンケートも同じような結果になるのが望ましいわけです。そのために何が必要かを考えてほしいというご意見かと思います。ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。後ほど時間がありましたら、承りたいと思います。次に、これも大事な話ですが、2020年度施策に対する検証結果について、前回もいろいろとご意見を賜りましたので、改めて事務局から説明をお願いいたします。

#### 4. 2020年度施策に対する検証結果について（資料2、資料3）

伊藤会長：

それでは、ただ今の説明内容につきまして、ご質問・ご意見・ご感想があれば、よろしくご願ひいたします。いかがでしょうか。ご説明によると、かなりコロナウイルス感染の影響が出ているようですが、これは致し方ないところです。

福山委員：

基本的なことがわからないので、教えていただきたいです。資料3の「A・B・C・D・E」の検証結果というのは、何を基準に、誰の意見を聞いて決めているのか、説明があったのなら、聞き逃しているのです、もう1回、説明をお願いします。

事務局 鈴木：

説明させていただいたのは、例えば、資料3の3ページを見ていただいて、各課において、1-1-1になりますが、様々な事業を1年間していき、目標数値を決めておきます。先ほど担当が説明いたしましたように、2ページにあるように、「実績値/目標値により点数化」して、

「a：80%以上は4点」～「e：20%未満は0点」というかたちで足していきます。例えば、3ページを見ていただきますと、No.1はcですので2点になり、No.2はdですので1点になり、No.3はeですので0点になります。これをずっと次の4ページまで足しますと、27点になります。27点で11の事業ですので、割ると2.4点ということで、2ページを見ていただきますと、「C：1.5点以上2.5点未満」ということで、総括表を見ていただきますとややこしいですが、資料3の1ページの総括表を見ていただきますと、2020年度がCという検証結果になるのです。それで、これは市役所内の各課において、一応、目標数値を決めて、達成できたか、できなかったか、上がってくる数字です。

福山委員：

わかりました。各課の達成度と言うか、数値化したものをさらに足して、何点以上であれば、「A・B・C・D・E」ということですね。そうしたら、各課のやっている施策は、市長マニフェストで考えた施策を実行してもらっていると思うのですが、それが果たして市民に寄り添っているものなののでしょうか。先ほどの市民アンケートと職員アンケートには、ちょっと乖離があるという指摘もありましたし、資料2で「評価指標」「目標」と書いてあります。私は子育て世代なので、子どものことが気になるので、「目指すまちの姿」の4「生涯輝くまち」の「郷土に愛情を持った子どもたちの育成」ということで、その評価指標が「今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合」となっています。それなのに、先ほどのアンケートでは、「1回市外に出ていったら、戻りたくない」と、郷土愛があれば、もしかしたら戻ってきたいという子どもがもっといたかもしれません。やっぱりアンケート結果、何て言ったらいいのか、ブレていると言うか、指標にするところが市民からするとズレていると言うか、そういうのをすごく感じる内容だと思ってしまいます。ただ。総合計画がある上で、二次の見直しなので、それに対して、大幅な変更はもしかしたらできないかもしれません。今、見るのも大変な莫大な資料であったり、市民の大切な意見であったり、委員の話し合いであったり、もう少し反映できるようにしてほしいのですが、審議会の時間の中で、事細かに話をするというのは無理だと思います。その辺をもう少し、せっかく皆様の貴重な時間をここに費やしているので、有意義な時間にできればというのがあるので、指標目標等を今さらながら、私たちが意見をして変えられるのか、少し疑問です。話が戻りますが、先ほどアンケートの中で突出していた、「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」という2つがありました。福祉ということを考えると、皆様のニーズでは、多数と少数で言うと、少数に寄ってしまう施策もあるのではないかと考えるので、出てきた結果と少ない意見をどう有意義に吸い上げていくのかも、今一度、考えていく必要があるのではないかと思います。アンケート結果が真ん中に近いということは、「何も特徴がない」と私は子育てをしていて思うので、マイナスはマイナスで、不便を武器にできるところもあるだろうし、やはりやり方なのではないかと思います。その方法、進め方というのは、すごく大事で、コロナのこともあるため、切り替えも大事な



2020、2021 年ではないかと思うので、もう少し子どもたちの輝く未来のために、残す宇陀市のために、評価指標について、もう少し市民目線で考えて、数値化してほしいというのが意見です。

事務局 鈴木：

まず目標値についてです。資料 2 の目標値におきましては、前回（第 1 回）の審議会でお話しさせていただきましたが、「伊藤会長からは 12 年間は長い」という話はありませんでしたが、市の総合計画は、基本目標を 12 年間で定めております。今回が中期計画の見直しということでございますので、資料 2 の年次目標につきましては一応、このようなかたちになろうかと思っております。ただ、今回、各課の事業におきましては、福山委員がおっしゃられたように、いろんな事業に取り組んでいけたらと思っております。また内容については、各課で精査できたらと思っております。それと、アンケート結果にもご意見を頂きました。先ほどから松石委員からもご意見をいただきましたように、いろんな少数意見をどうするのかというのがありますが、アンケートのご意見も真摯に受け止めまして、今後の計画策定に反映できたらと思っております。ただ、先ほど伊藤会長がおっしゃられたように、すべて鵜呑みするということではなく、当然、事務局で精査させていただきながら、または、委員の皆様にご審議いただきながら、事業を進めていけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

伊藤会長：

先ほど福山委員がおっしゃられたことは、非常に大事なことだと思っております。市民に寄り添ったということですが、ここで挙がっているものを評価・検証するとなると、何か目安が要ります。目標値を各課が今までの行政活動の実績値と言うか、人数等いろんなことをベースに、10 年後はどうするのか、決めているのですが、ここにもし落とし穴があるとしたら、本当に住民はそういうことを求めているのか、どうかです。今回、市民アンケートを改めて取った結果、「わからない」という回答が多すぎるわけです。これは「情報がないから、わからない」のか、「わかっているけど、わからない」と書いたのかということもあるし、何度も申し上げますが、職員と市民の間で乖離があるという話です。どうしても、こういう行政評価というのは、何か行政指標みたいなものが必要です。福山委員がおっしゃっているのは、住民側に立った指標ということですが、実際に「見える化」するのは、なかなか難しいです。とは言え、何らかのやり方を工夫していかないと、本当に市民の皆様へ寄り添ったかたちの行政はできません。この辺りにジレンマがあるわけです。それと、ちょうどコロナ禍があって、今までどおりにはいかないことは、皆様もわかっているわけで、生活様式が一変してしまったのです。そうすると、当然、経済活動にしても、住民の日々の生活にしてもそうですが、見直さざるを得ないのです。そのときに、これから宇陀市がどういうまちを目指すのかというときに、やはり見直しのタイミングとしては、非常

に重要な時期になっております。今日、いろんなご意見を頂きましたが、その辺りをじっくりと考えて、これからの施策策定に反映していただければと思います。今回は、2020年度の検証結果ということで、今までの基準で検証したら、こうなったという話であって、来年度は変わってくると思います。ご意見を反映していただければと思います。大事なご意見も頂きましたので、特に今、ご意見がないようでしたら、検証結果については、これで終えたいと思います。今日は本当に有益なご質問・ご意見等を頂きましたので、事務局としても参考にさせていただけるとと思います。今はまだ思いつきませんが、これはこうではないか等、ご質問・ご意見等がありましたら、事務局に電話・FAX・メールで結構ですので、お寄せいただければ、また次回のときにでも皆様のご意見、事務局の考え方を共有させていただきます。今後の中期基本計画の策定に反映できるようにさせていただければと思います。

松塚委員：

資料2の「地域力を発揮するまち」で、1つは「経常収支比率」で、103%と100%を超えていたのが、97%になったということは、たいへん喜ばしいことですので、このまま維持をしていただきたいと思います。その次に、「情報共有の促進」の「SNSのフォロワー数」というのは、どういうことでしょうか。というのは、今の市民と職員の乖離というのが出ていたので、情報不足かと思うのです。私はSNSをしませんので、どういうことかわからないので、1回聞いて、この件に関してはやってみようかと思っているので、教えていただきたい。

事務局 鈴木：

松塚委員のご質問の件ですが、こちらにつきましては、資料2の目指すまちの姿別の実績値をご覧ください。「地域力を発揮するまち」の中の「情報共有の促進」という目標として、評価指標が「市やまちづくり協議会のSNSのフォロワー数」ではないかと思っております。2020年度が3,552件となっております。この件数ですが、秘書広報情報課という部署で、FacebookとInstagramを開設しており、これらのフォロワー数となっております。

松塚委員：

フォロワー数とは何かという質問です。

事務局 鈴木：

これはまちづくり協議会での数ですが、FacebookやInstagramを市民の方等が見られている数になります。

伊藤会長：

おわかりいただけましたか。

松塚委員：

本当のことを言ったら、よくわかりませんが。

事務局 森本：

SNS ですので、いちばんのメインは Facebook になりますが、それから、Instagram もあります。それを自分の携帯に登録して、知りたい方を検索して、その方の活動を見ていて、面白いと思ったら、フォローして自分の携帯に通知が来るようにすることができます。ですので、宇陀市の Facebook をフォローしていただいている方が今、この人数ということで、もっと増やす必要があります。

松塚委員：

ということは、宇陀市が出している情報を常に受け取っている人の数ということですか。

事務局 鈴木：

市を支援していただいているという意味です。

松塚委員：

登録すれば、見られるわけですね。

事務局 森本：

登録しているものが、検索に出るのです。フォローすると、常に宇陀市が投稿したら、その人の携帯に「宇陀市から投稿がありました」という情報が来るわけです。

松塚委員：

ホームページとは、また違うのですか。

事務局 森本：

ホームページとは違います。ホームページをお気に入りに登録する人はいますが、このフォロワーというのは、意味が違います。

福山委員：

フォロワー数は、宇陀市民だとわかっているのですか。

事務局 森本：

宇陀市民だけではないと思います。

福山委員：

そうしたら、県外の人が多いかもしれないので、市民と情報共有ができているとは限りません。ここのフォロワー数を持ってくるといのは、もしかしたら、宇陀市民は数人しかいないかもしれないので、その辺がどうなのかと思ってしまいます。

松塚委員：

ホームページには、何人が見たかという閲覧数が出てくるのではないですか。

事務局 森本：

もちろん市民の方が多いのには越したことはないですが、市外の方にもフォローしていただいて、より宇陀市の情報を共有していただくファンを多くするという方策はいいですね。

松塚委員：

応援してくれる人がいるということですね。

伊藤会長：

そうです。宇陀市の応援団ということです。

三本木委員：

もっと早く届いていたのかもしれませんが、森林組合が休みだったので、昨日、私の手に入りました。たいへん多くの資料なので、遅れていたのもあるかもしれませんが、目を通させていただきました。目を通して感じたことを申し上げます。アンケートは、高校生、中学生、若年層等、随分とありますが、注目したのは、転入者のところ。いろいろな意見があり過ぎて、大変だったと思います。私が感じたのは、1 つには転入者の中で、「榛原と宇陀が涼しい」「夏は涼しくて、クーラーが要らない」「朝晩、涼しい」と述べられているのが、6 つあるのです。「空気がきれい」というのも、5 つくらい出てきます。こういうことが宇陀の特徴であるかと思います。「企業誘致」などありますが、企業が宇陀に来るといことは、こちらから材料等、何か魅力あるものを提供しないと、なかなか宇陀で起業しようかなという企業も少ないかと思います。これらのことは、これからいろいろと考えていかなければいけないですが、天然の「空気がきれい」というのは、ほかでは少ない魅力であると思います。関西は大都会に近いですが、「夏にあせもで困っている人がいれば、宇陀に来なさい」、あるいは、「喘息で困っている人がいれば、宇陀の空気がきれいなので、来なさい」ともって宣伝していけます。「困ったときには、足元を振れ」と言います。足元ばかり振っていても仕方ないですが、とにかく「田舎の宮相撲」みたいなことばかりを

言っている、国技館の力士でもなかなかそこまでは行かないということですが、世間はよりよいものを選んでいっているというのが現状です。つまり、田舎のものだったら、これくらいでいいだろうというものが、なかなか通用しなくなっている時代かと思えます。田舎は田舎としての本当のよさの味わいを、大企業や都会の大きなメーカーでは出せないものを育てて出していくというようなことを、もう少ししっかりと考えていくべきです。なぜ、そう言うかという、経済がよくなるといういろいろなサービスができないのではないかと思います。ある程度のことは、国や県の知見があるからできますが、やはりしっかりとした財政の基盤を築いていかないとはいけません。そればかりに特化はできなくとも、ほかのこともやっつけていかないとはいけません。しかし、もう少し真剣になって、例えば、農業の休耕地とか、あるいは、林業の活性化も含めて、私は森林組合の人間だから、余計にそういうことを言うかもしれませんが、そういうことをこれからは官民一体となって、開発、あるいは、利用していくことを真剣に考えないとはいけません。これから、宇陀がどうなるのか、これからも宇陀を続けるのかという話が先ほど出ましたが、宇陀市をやめるわけにはいかないでしょう。合併があつたり、形が変わったりすることがあるにしても、続けていかないとはいけません。そうしたら、この宇陀をどう続けるのか、どう言うのか、潰すのではなく、小さく特徴を活かしてまとめていくような宇陀市を構想していく、基本計画の骨子があつたらいいのではないかと、ざっくりと考えました。

伊藤会長：

おっしゃることは、ごもっともかと思えます。要は、宇陀市のまちの姿は今までどおりにはいかないですが、かつてのように大きく成長することも難しいわけです。生産・消費・雇用とか、きちんと宇陀の中でぐるぐるとうまく循環できる仕組みをつくっていくことです。そのときに、宇陀市の規模というのは、どれくらいがいいのだろうかという話です。どんどん移住してきてくださいというのは、どの自治体も同じことを言っていますので、難しいです。要は、宇陀市の姿をどう描くかというのが、まさにこの総合計画の大きな目標になっているわけです。今日、皆様がおっしゃられた、まず基本は、宇陀市民が将来、子・孫の世代に向けて、どんなイメージを持っておられるのかということです。絵に描いた餅ではなくて、本当に実現できるような方向性を考えていく、そのために今日、皆様にご意見を賜っているのです。そういう意味で、行政と市民で将来のまちの姿を目指して、一緒に考えていくプロセスが大事かと思えます。かつての総合計画みたいなものは、成長志向で、成長・発展することを考えていましたが、続けていくこと、将来、宇陀市がなくなるはずはない、ずっとあり続けるわけで、あり続けるためにどうするのかを考えていくというのは、皆様も一緒だと思います。大きなコロナ禍という変化がありましたので、もう一度、考え直すいい機会だと思います。ちょうど市長も代わられたので、宇陀のまちをどうするかということを、今回のこの審議会が見直すためのいいきっかけづくりになるかと思えます。次回はもう少し具体的な話が出てくるかと思えますので、またそのときにいろん

なご意見を頂ければと思います。

#### 5. ワークショップについて（資料6）

伊藤会長：

ワークショップで積極的に市民の方々からご意見を頂戴しようということです。開催スケジュールは、書いてあるとおりでですか。まだ、これは計画段階で、どういう方々をワークショップに参加していただくというのは、現時点ではまだわからないですか。

事務局 鈴木：

一応、参加していただく予定の対象者は、資料6の2ページに書いてあるように、若手事業者の方、子育て中のご夫妻、先ほどから出ているように行政の若手職員で、その生の声を聞けたらということで、それとともに、市長です。本来のところでは、トップ会談という予定もしていましたが、ワークショップ形式でできたらと思っております。募集につきましては、具体的には公募する予定でしたが、公募よりも事務局から指名させていただいたらどうかというご意見もありましたので、スケジュール的には、10月上旬には行っていきたいと思っております。

伊藤会長：

実施した結果については、次回の審議会でご報告いただけるということですね。以上で議題をすべて終了いたしましたので、あとは事務局に進行をお願いしたいと思います。

#### 6. その他

事務局 鈴木：

先ほど三本木委員からございましたように、莫大な資料を審議会が始まる2、3日前に出させていただき、誠に申し訳ございません。事務局も一生懸命に資料を作成したのですが、いろいろと手違いがございまして、次回からはなるべく早くお送りできるように努力させていただきたいと思っております。そういったところもご了承いただけたらと思っております。膨大な資料でございますので、先ほど伊藤会長からもございましたように、何かご意見がございましたら、総合政策課のほうに、お電話・メール・FAX等でご連絡いただけたらと思っております。先ほどの三本木委員のお話ではありませんが、宇陀市は市長がずっと言っております、大和高原の宇陀であり、夏は平地よりも気温が2度から3度も涼しいということもございまして、その辺も十分に配慮しながら、今後の総合計画等も策定していけたらと思っております。この審議会も2回目ですので、あと2回くらい、次回は11月下旬くらいを予定しておりますので、各委員様におかれましては、たいへんお忙しいとは思いますが、事務局からご案内させていただけたらと思っております。委員様の報酬等につきましては、また指定口座にお振込をさせていただけたらと思っております。

伊藤会長：

以上をもちまして、第 2 回の審議会を終了させていただきたいと思います。ご協力、どうもありがとうございました。

事務局 鈴木：

伊藤会長には、スムーズな議事進行、ありがとうございました。  
これにて、第 2 回目の審議会を終わりたいと思います。

以上